

回復と不確実性を両にらみ、ECBは政策判断を急がず慎重姿勢を維持

- ECBは5会合連続で、政策金利の据え置きを決定
- 景気の底堅さを評価、ユーロ高への警戒は強めず
- 不確実性は依然強く、ECBは当面は様子見姿勢を維持

■ ECBは中銀預金金利を2.0%に維持

欧州中央銀行(ECB)は5日、事前予想の通り、5会合連続で政策金利を据え置き、中銀預金金利を2.0%に維持しました(図1)。声明では、前回会合から概ね変わらずに、インフレ率が物価目標(中期的に2%)で安定することを再確認したとし、今後の政策運営を巡ってはデータ次第で会合毎に判断する方針を保ちました。ラガルドECB総裁は記者会見で、良好な状況にあるとの評価を変えず、現時点では政策変更の必要性はないと判断した模様です。

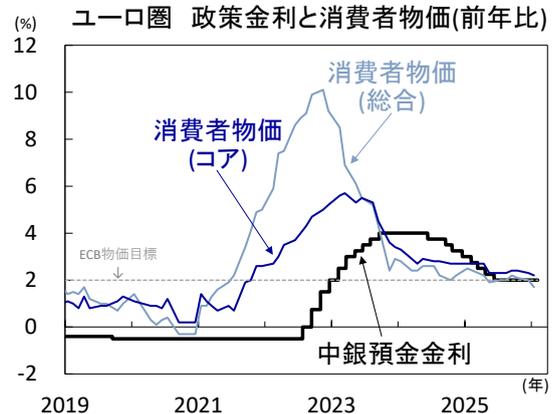
■ ユーロ高への警戒は強めず

今回声明では、景気回復に関する説明がより具体化され、国防・インフラ投資の段階的拡大が成長を下支えしていると明示しました。同日に公表されたドイツの12月製造業受注は前月比+7.8%と、市場の減少予想に反して約2年ぶりの大幅増となり、大型受注を除くベースでも4カ月連続で増加(図2)。財政拡張策を支えに回復基調が鮮明となりつつあり、域内景気の底堅さに対するECBの自信を裏付ける結果となりました。一方、注目されていたユーロ相場への見解は声明には盛り込まれず、ラガルド総裁は、為替相場を注視しているとしつつも、ユーロドル相場は2025年夏以降レンジ内で変動しており、昨年以来のユーロ高の影響はすでにベースラインに織り込まれていると説明。警戒感の強まりは示されず、総じて、ECBは経済情勢への前向きな姿勢を保っているとみられます。

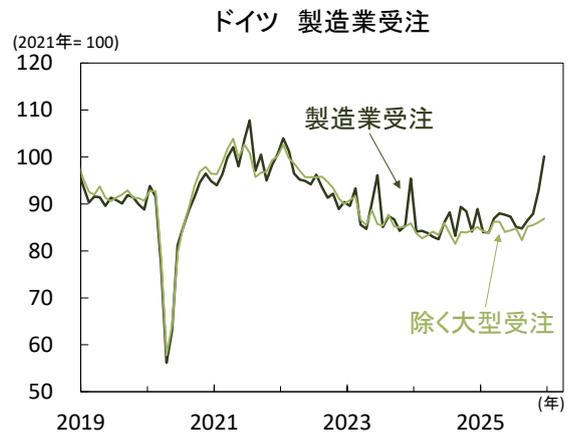
■ 不透明感はおお強く、ECBは判断を急がず

もっとも、ECBは楽観姿勢を強めてはおらず、先行きの不確実性を依然として強く警戒しています。声明では、見通しは依然不透明との表現が再び盛り込まれ、ラガルド総裁も賃金動向や物価の基調を見極める上では、なお不確実性が大きいと指摘し、サービスインフレの下振れ(図3)に慎重な姿勢を崩していません。ECBは当面データを丁寧に見極める姿勢を維持するとみられ、市場では少なくとも年央までは金利据え置きが続くとの見方が強まっています。今後も、サービス価格や賃金動向に加え、財政拡張策の実行ペース、為替動向等が政策判断に与える影響を注視する展開が続くそうです。(吉永)

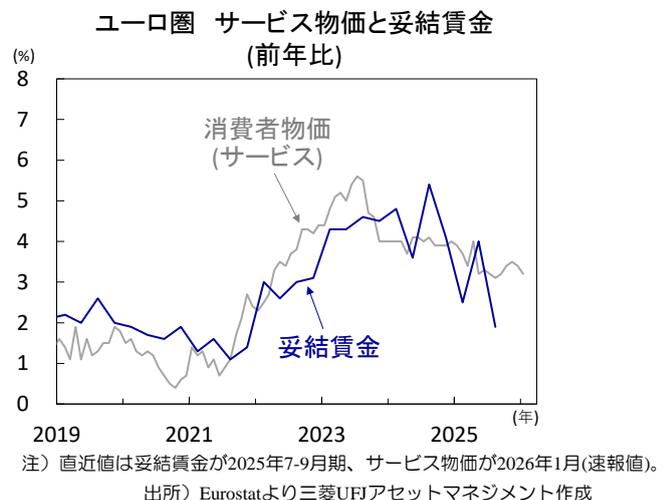
【図1】 ECBは5会合連続で政策金利を据え置き、物価安定に向け、引き続き良好な状況と評価



【図2】 ドイツの12月製造業受注は大幅増、回復基調がより鮮明に



【図3】 ECBは引き続き、賃金上昇の鈍化やサービスインフレの動向に注視



本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJアセットマネジメント ストラテジック・リサーチ部リサーチグループの見解です。また、三菱UFJアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会